
夜に輝くために・・・

神越優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜に輝くために・・・

【Zコード】

Z5090D

【作者名】

神越優

【あらすじ】

『恋に愛されない男』番外編。本編は凍結してしまいましたが、主人公、相川翔輝のホスト時代のお話です。こちらは短い連載による予定ですので、自信回復の為にサッと書き上げます。相川翔輝は、18歳になると同時に、あるホストクラブのドアを開けた。欲望に塗れた歌舞伎町を、彼は何故訪れたのだろうか・・・？

プロローグ（前書き）

神越優で「」であります。

本編『恋に愛されない男』をお読みになつてくださつた方は知つていふと思いますが、はじめましてと言つておきます。

本編を凍結してしまい、真に申し訳ありませんでした。
謝罪のつもりもありまして、一度と書くまいと思いましたが、恋愛モノになりますが、番外編を全力で書くことに致しました。

凍結してしまつたせいで、登場することなく、名前のみ出てきた、
凛 -

彼女が今回の主要人物です。

では、短いお話になりますが、お楽しみくださいませ。

プロローグ

- なんでだろう・・・ なんで・・・ なんでなんだ・・・

痛みを伴い、腫れぼったさを感じる瞼は、重く、重く、視界を閉ざそうとしてくる。無理矢理開いた視界に入つてくるのは、すっかり暗くなってしまった、冬の夕方。日本という経済大国は、豊かな技術力と、溢れんばかりの自然が表現する美しい四季を持った、諸外国からも日々注目を受けている。そんな、日本の首都、東京。その中でも、一際目立つていてる町がある。

新宿区三丁目・・・歌舞伎町。

辺りを照らすネオンの明かりが、煙草の吸殻や、平然とポイ捨てされたゴミで汚れた町を、艶やかに照らしている。咽返るような悪臭。ゴミが腐った臭い、下水道の臭い、そして、煌びやかなスースや、お洒落な女性の、肌を剥き出しにした服等から時折香つてくる、香水の匂い。更に、この日本有数の風俗街をうろついている、欲望にまみれた人々から臭う、酒の臭いも、特徴だろう。

欲望にまみれた、薄汚い街。だが、欲を持つ者からしたら、こんな純粋な街は、滅多に見られない。

人は、誰しもが欲を持つて生きている。食欲、睡眠欲、物欲、出世欲、性欲・・・それらを隠しもせず、堂々と生きている人々を、腫れ物のような目で見る者もいれば、共に欲望をひけらかし、思つがままに生きていく人々もいる。

後者のような人間が集まつたこの街は、かつての江戸時代に栄えた遊郭のように、歴史を持つ、欲望が集まつた楽園でもあり・・・地獄でもある。

殴られた痛みを堪え、怪我をしたあちこちの自分の箇所を庇いながら、ゆっくりと自宅を手指す。自分の同僚3人と、共に暮らすLDKのマンションはもうすぐだ。

- もうすぐ・・・もう・・・すべ・・・

血を流し、見るも無残な程にあちこちが青黒くなつた顔、普段は綺麗に着こなしているスーツも、グチャグチャのシワまみれになつているのにも関わらず、すれ違う人々は、横目で冷たい視線を一瞬送るだけで、すぐにそれの目的地へと向かう。

この街で、他人との交流は、ほぼ、無い。

いくら傷ついているからといって、心配して近寄れば、自分が何をされるかわかつたものではない。だから無関心になるのが一番。自分の欲だけ発散できればいい。それが暗黙のルールみたいなものかもしねり。

- なんで・・・なんだ・・・凛・・・

相川翔輝、18歳の夏だった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5090d/>

夜に輝くために・・・

2010年11月17日14時27分発行